

城南衛生管理組合
管理者山本正殿

2019年度：城南衛生管理組合
環境マネジメントシステム 外部評価報告書

2019年12月11日
外部評価員
芦原昇 吉田康夫
(文責:吉田)

外部評価実施日2019年12月10日－11日

外部評価実施所属 ・本庁 ・クリーンパーク折居 ・グリーンヒル三郷山
・クリーンピア沢 ・EMS事務局

【総合評価】

以下の項目の評価により、新マネジメントシステムは「組織にとって適切であり、運用は妥当であり、意図した目標に対し有効である」と判断します。

【システム運用】

1. システムの運用

今回の外部評価は「2019年4月1日付：城南衛生管理組合環境マネジメントシステム運用マニュアル第2版」に基づいて実施しました。

環境側面の抽出／影響評価→著しい環境側面の決定に基づいて活動の展開（目標・維持管理・中長期計画・緊急事態その他）が行われています。順守評価、内部監査、緊急事態への準備及び対応等は適切に実施されています。

2. マネジメントレビュー

令和元年5月27日に専任副管理者、部長、環境管理責任者によるマネジメントレビューが実施されています。レビューでは内部環境監査、環境目標等の達成状況、環境関連情報及び社会的動向の変化や利害関係者からの要望、順守評価の変化等を中心に行われています。特に内部監査員の力量（内部監査での経験・知識）の活用やリスクの視点を考慮すること等が検討されています。

3. 専任副管理者の指示事項

マネジメントレビューに基づいた主な指示事項は次のとおりです。

- ・地球元気プランや温室効果ガス削減の一層の取組
- ・研修の充実やマスコミの積極的活用、個々の意識向上、SDGsへの関心等々を挙げておられます。

<トップインタビュー>

外部の動向として「八幡市：CO2削減、廃食油リサイクル」「宇治市：クールチョイス宣言」があります。組合としても広報活動を通して組合の環境取組や市町民へのお願い事項等の情報発信、内部的な課題として個人の環境意識や環境に関する社会の動向に対する認識（地球温暖化対策、SDGs等）の向上を図ることをあげておられます。今後の方向性として、EMSの仕組みを活用して例えば「リスク管理、カーボンゼロやプラ廃棄物の減量等々」に一層の取組を期待されています。

【主要項目の評価】

1. 計画：目標の管理

目標の設定には3つの枠組みが示されています。

「組織全体の共通目標」「安心・安全な施設運営」「各サイトごとの目標（循環型社会、低炭素社会の構築をめざす）」があります。

主として著しい環境側面から導かれた「2018年度の目標」の達成状況一覧表：組合マネジメントレビュー記録を参照ください。

2. 法的及びその他要求事項

事務局にて作成された「環境関連法規制登録等一覧」では該当法令及び対象サイトが指定されています。対象サイトでは「法的要求事項等一覧兼順守報告」が作成され、該当月に要求事項を実施し記録しています。半期ごとに同報告をEMS事務局に提出し事務局で確認しています。定期的な見直しを毎年4月に実施しています。

3. 内部監査

直近の実施状況2019年8月19日～23日 監査員10名（登録監査員41名）

内部監査チェックシートを使用してきめ細かな監査を展開しています。

称賛事項：14件、要望事項：11件、観察事項：5件、不適合：0件

審査員は自部門の審査を行わない等、監査における公平性、適切性、有効性が認められます。

4. 評価結果

(ア) 称賛事項（好事例）

a. 本庁：業務課

クレームに対する受付・対応及び月次データ（受付数及び分析）等の記録がなされ再発防止のための取組に生かされています。

b. クリーンパーク折居

新工場完成に伴い短期間で要領書等（法順守、目標、教育訓練、外部委託先との連携等）の見直しをされています。

c. グリーンヒル三郷山

サイトで行う研修の際「運用マニュアルの教育」を定例的に実施されています。

d. クリーンピア沢

EMSをよく理解した教育担当者による教育訓練の内容に工夫が見られます。（方針の内容、専任副管理者の指示事項についての教育訓練等）

(イ) 改善提案

a. 内部監査

内部監査員の任命にあたっては登録監査員41名の中から選定されていますが、選定に際し「監査員の職務経験」を考慮した選定に工夫の余地があります。

例：専門性のある監査内容に対する力量保持者を監査員に選定する等。

b. リスク及びクレームからの活動（目標、維持管理、緊急事態対応等）の視点
目的目標や維持管理項目、緊急事態対応等の抽出に当たり、リスクの評価やクレームからも検討するといえると思われま

す。以下は今回の対象サイトからのヒアリング内容です。

業務課：長期滞納者で汲み取りを停止する世帯への対応が課題となっている。

公平性や衛生面の問題もあるので、粘り強く訪問するなどしている。

収集業者に対する苦情は業務課に入るが、その内容の分析をしている。

クリーンパーク折居：住宅地が近く、何かあった場合の影響が大きい。このため、連絡協議会で自治会に情報提供をしたり、住民向けの勉強会も開催している。また、運営が外部委託であるため、自治体目線での安全重視の意識を共有する会議を実施している。なお、運転にあつては基準を超過したら止めるというのではなく、超過する前に止めるというリスク管理を確立している。

グリーンヒル三郷山：異常気象による大雨で発生した過剰浸出水の処理に支障をきたす可能性や、災害ごみが大量に搬入する可能性がある。浸出水については、循環用のポンプを増設するなどして対応している。

クリーンピア沢：処理量の減少により処理は安定するが、処理能力が過大になれば施設規模の見直しも必要となり得る。

以上